

第9章

公園・地域別に見た野宿生活者

9.1 公園地域変数（12 類型）による分析

9.1.1 はじめに—公園地域別にみた特徴—

この公園地域別という基準変数は、釜ヶ崎からの地理的距離に置き換えることができる。（第Ⅱ部第1章）で既に示しているように、調査公園を12の大地区類型に分け、釜ヶ崎に近い地区順に上から並べている。この分析ではテント居住者だけを対象としたので、532票を母数としている（第Ⅱ部表1.8）

この大地区別の釜ヶ崎からの距離という指標は、市内の公園などに居住する野宿生活者と釜ヶ崎との関係が、公園地域によってどのような違いがあるのかないのかを確認するという意味では重要な基準変数となる。釜ヶ崎と関係を有する説明指標、例えば、釜ヶ崎での仕事経験があるかないか、今後の釜ヶ崎のかかわり方（釜ヶ崎変数）などと密接に関係すると予想される。

9.1.2 公園地域変数（12 類型）と釜ヶ崎での就労経験

（表9.1）を見ると釜ヶ崎からの距離が反映する結果となっている。釜ヶ崎での就労経験「あり」と回答している割合が、「浪速・西成」では75%、「天王寺」では約90%であるのに対して、「長居公園」では約67%、「大阪城公園」では約50%、「中之島公園」では約45%、そして「扇町公園・北部」では約20%と値が低くなり、「淀川河川敷」では15%と著しい違いが読み取れる。

度数 列%	「浪速 ・西成」	「天王寺 公園」	「天王寺」	「阿倍野」	「西部」	「長居 公園」	「南部」	「大阪城 公園」	「中之島 公園・大川」	「扇町公園 ・北部」	「東部」	「淀川 河川敷」	行合計 比率
あり	57 75.0 %	13 72.2 %	23 92.0 %	24 88.9 %	11 73.3 %	83 66.9 %	4 36.4 %	60 50.4 %	21 45.7 %	6 23.1 %	4 36.4 %	5 14.7 %	311 58.5 %
なし	19 25.0 %	5 27.8 %	2 8.0 %	3 11.1 %	4 26.7 %	41 33.1 %	7 63.6 %	59 49.6 %	25 54.3 %	20 76.9 %	7 63.6 %	29 85.3 %	221 41.5 %
列合計 比率	76 14.3 %	18 3.4 %	25 4.7 %	27 5.1 %	15 2.8 %	124 23.3 %	11 2.1 %	119 22.4 %	46 8.6 %	26 4.9 %	11 2.1 %	34 6.4 %	532 100.0 %

Test ChiSquare Prob > ChiSq
Likelihood Ratio 94.19 <.0001
Pearson 87.78 <.0001

表 9.1: 公園地域変数（12 類型）と釜ヶ崎での就労経験

9.1.3 公園地域変数（12 類型）と釜ヶ崎変数

先の節で、釜ヶ崎での就労経験と公園地域変数（12 類型）には有意な関係があることが分かった。それでは、野宿生活者にとって、調査時点での釜ヶ崎変数^{注1}と生活場所（公園地域変数）にはどのような関係があるかどうかを以下見ていく。

（表9.2）を見ると、釜ヶ崎の位置づけは、釜ヶ崎との距離に相関する結果となっている。まず「釜ヶ崎往還」層は、「淀川河川敷」の若干の例外を除き、その出現率は距離とともに減少していく。「釜ヶ崎離脱」層においては、少なからず

^{注1} ここで言う釜ヶ崎変数とは具体的には、今後釜ヶ崎で就労していく意志のある「釜ヶ崎往還」層、今後釜ヶ崎で就労していく意志をのまない「釜ヶ崎離脱」層、釜ヶ崎で就労したことがない「非釜」層の三分類を用いている。

「浪速・西成」よりは「長居公園」、「阿倍野」、「天王寺」、などに多く見られ、距離を離れても「大阪城公園」や「中之島公園・大川」では少なからず見られる。一方「非釜ヶ崎」層は、「淀川河川敷」を最高の値として、距離が遠くなるにつれ出現率が高まるという結果を示している。

度数 列%	「浪速 ・西成」	「天王寺 公園」	「天王寺」	「阿倍野」	「西部」	「長居 公園」	「南部」	「大阪城 公園」	「中之島 公園・大川」	「扇町公園 ・北部」	「東部」	「淀川 河川敷」	行合計 比率
「釜ヶ崎 往還」層	37 49.3 %	6 35.3 %	13 52.0 %	11 42.3 %	4 26.7 %	32 26.4 %	2 18.2 %	26 22.0 %	8 17.8 %	1 4.0 %	0 0.0 %	4 12.1 %	144 27.6 %
「釜ヶ崎 離脱」層	21 28.0 %	6 35.3 %	11 44.0 %	13 50.0 %	7 46.7 %	50 41.3 %	2 18.2 %	34 28.8 %	13 28.9 %	5 20.0 %	4 36.4 %	2 6.1 %	168 32.2 %
「非釜ヶ崎」 層	17 22.7 %	5 29.4 %	1 4.0 %	2 7.7 %	4 26.7 %	39 32.2 %	7 63.6 %	58 49.2 %	24 53.3 %	19 76.0 %	7 63.6 %	27 81.8 %	210 40.2 %
列合計 比率	75 14.4 %	17 3.3 %	25 4.8 %	26 5.0 %	15 2.9 %	121 23.2 %	11 2.1 %	118 22.6 %	45 8.6 %	25 4.8 %	11 2.1 %	33 6.3 %	522 100.0 %

Test ChiSquare Prob > ChiSq
Likelihood Ratio 116.4 <.0001
Pearson 105.8 <.0001

表 9.2: 公園地域変数 (12 類型) と釜ヶ崎変数

以下の図は、先に述べた釜ヶ崎変数と釜ヶ崎からの距離 (地域・公園変数別) の関係を示している。

(図 9.1) は、今後釜ヶ崎で就労する意志がある「釜ヶ崎往還」層と釜ヶ崎からの距離 (地域・公園別) の関係を示したものである。「釜ヶ崎往還」層の割合は、釜ヶ崎から距離が離れるにつれて減少していく。

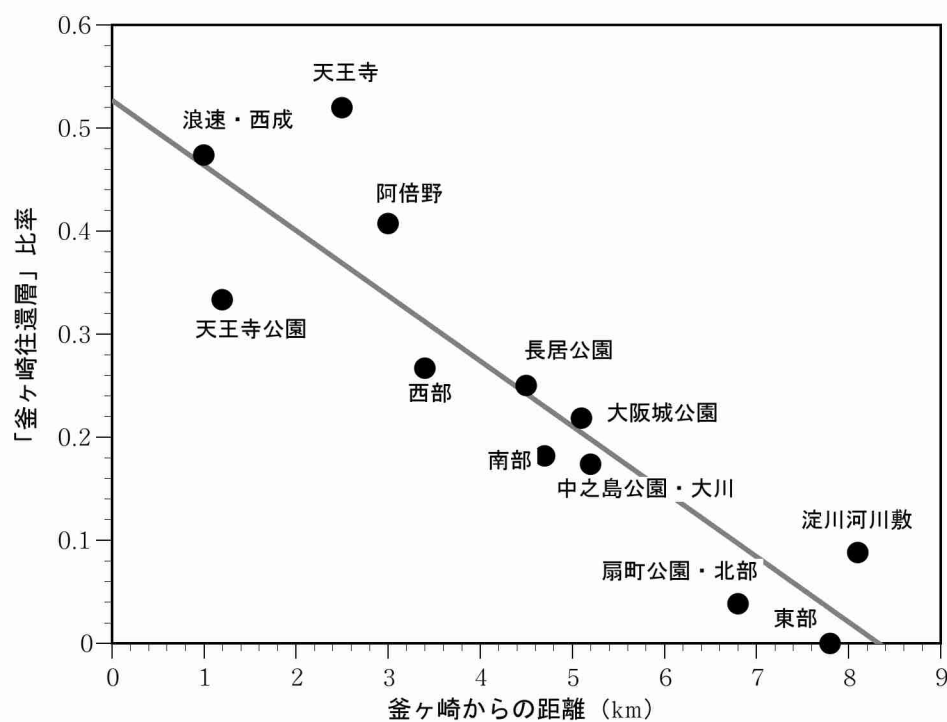


図 9.1: 各公園地域の「釜ヶ崎往還」層の比率と釜ヶ崎からの距離の関係

(図 9.2) は、今後釜ヶ崎で就労する意志がない「釜ヶ崎離脱」層と釜ヶ崎からの距離 (地域・公園別) の関係を示したものである。「釜ヶ崎離脱」層の割合は、釜ヶ崎からの距離 (地域・公園別) が約 3km の地域 (「天王寺」、「阿倍野」、「西部」) で高い。また、釜ヶ崎から近くすぎても (「浪速・西成」、「天王寺公園」)、「釜ヶ崎離脱」層の割合は下がる。釜ヶ崎の距離が約 4km 以上になると「釜ヶ崎離脱」層の割合が減少していく。

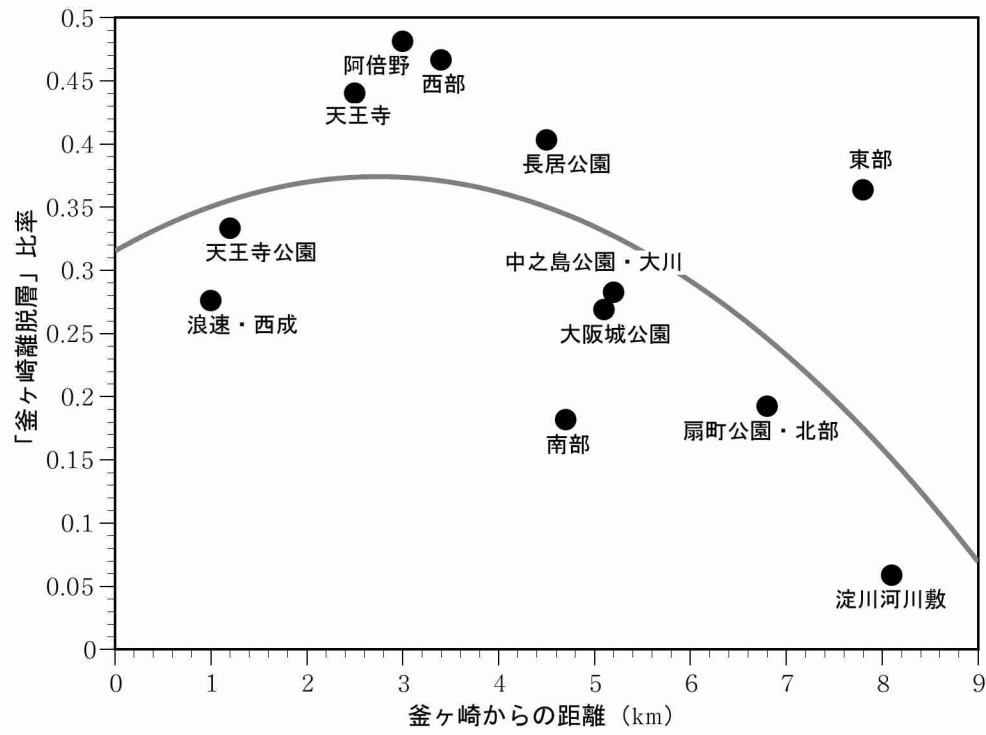


図 9.2: 各公園地域の「釜ヶ崎離脱」層の比率と釜ヶ崎からの距離の関係

(図 9.3) は、釜ヶ崎で求職したことがない「非釜ヶ崎」層と釜ヶ崎からの距離(地域・公園別)の関係を示したものである。「非釜ヶ崎」層の割合は、釜ヶ崎から距離(地域・公園別)が大きくなるにつれて高くなる。

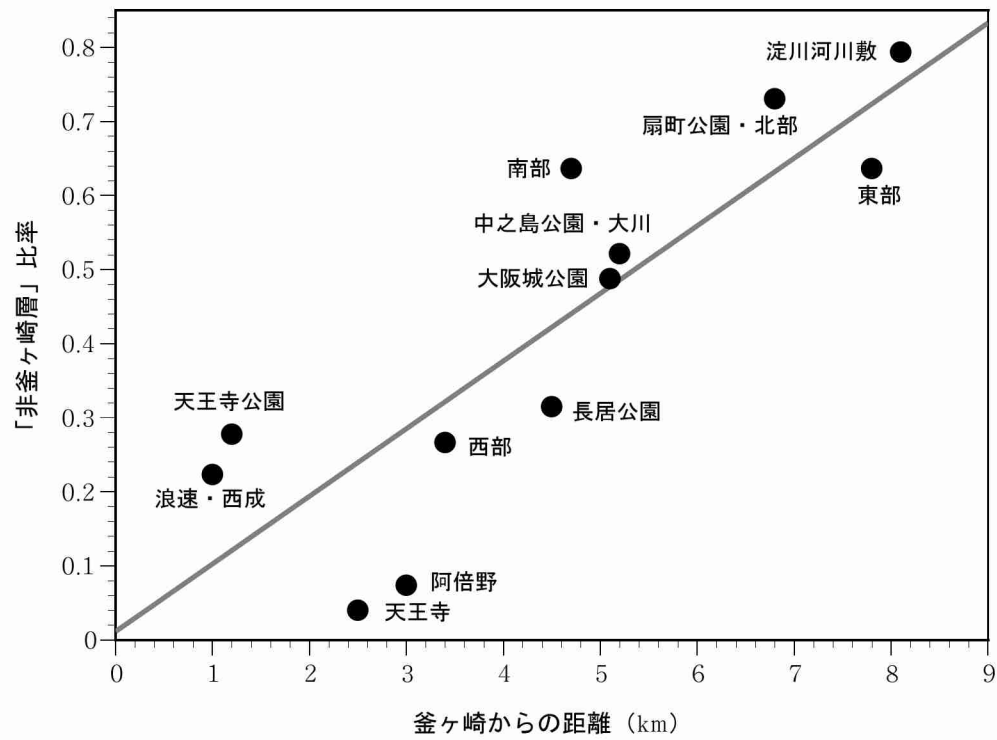


図 9.3: 各公園地域の「非釜ヶ崎」層の比率と釜ヶ崎からの距離の関係

以上、釜ヶ崎変数と距離(地域・公園別)には有意な関係があることがわかった。釜ヶ崎からの距離が近い公園・地域では「釜ヶ崎往還」層の割合が高く、釜ヶ崎から「一定」距離の公園・地域では「釜ヶ崎離脱」層の割合が高く、釜ヶ崎から離れた公園・地域では「非釜ヶ崎」層の割合が高くなる。

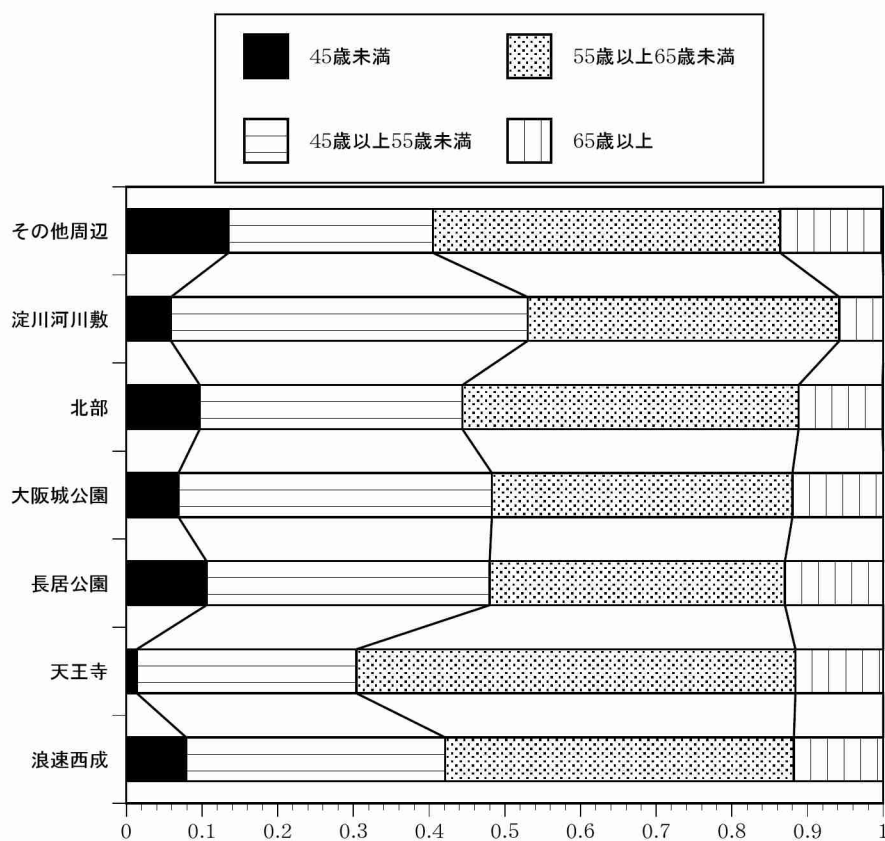


図 9.4: 公園地域と年齢分布

9.1.4 公園地域変数（7 類型）と基本属性

公園地域変数（7 類型）と年齢

次に公園地域変数（7 類型）と年齢変数の関係を見る。各地域公園変数（7 類型）の平均年齢を算出したところ以下のようになった。“浪速西成” 56.6 歳、“天王寺” 57.8 歳、“長居公園” 55.3 歳、“大阪城公園” 54.9 歳、“北部” 55.6 歳、“淀川河川敷” 54.2 歳、“その他周辺” 54.8 歳。“天王寺”、“浪速西成” で平均年齢が高く、“大阪城公園”、“淀川河川敷”、“その他周辺” で平均年齢が若干低くなっている。低くなっていると述べたが、各地域公園ともに野宿生活者の平均年齢 55 歳と相対的に高齢である。

各公園地域変数の年齢分布（図 9.4）を見ると、“天王寺” では「45 歳未満」層の割合が少なく、「55 歳以上 65 歳未満」層の割合が高くなっている。また“淀川河川敷” では「45 歳以上 55 歳未満」の割合が高くなっている。

以上をまとめると、“天王寺” で他の公園地域と比べて、高齢野宿生活者層の割合が高く、“淀川河川敷” では「若年」野宿生活者層の割合が高くなっている。

公園地域変数（7 類型）と野宿期間

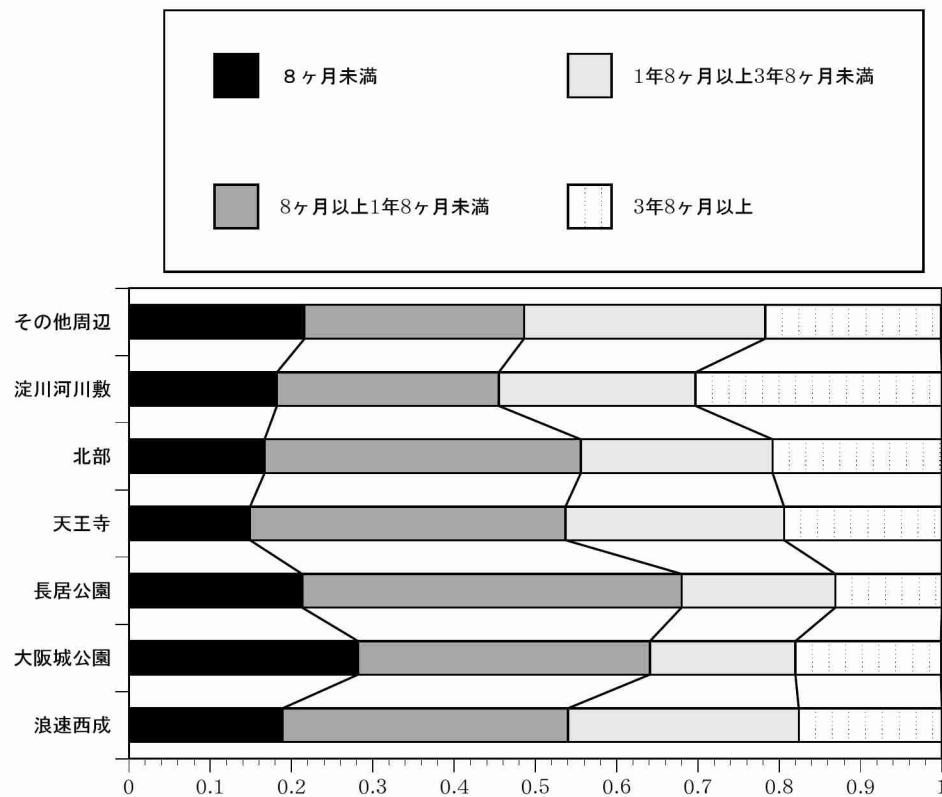


図 9.5: 公園地域と野宿期間

野宿期間変数とは既に第 II 部第 1 章でも述べているように、全野宿期間を 4 階層に分類した変数である。公園地域変数（7 類型）と野宿期間変数の関係を見ることにより、公園地域によって全野宿期間にどのような分布があるのか考察していく。

（図 9.5）を見ると、“大阪城公園”で全野宿期間が「8ヶ月未満」層の割合が高く、“長居公園”で全野宿期間が「8ヶ月以上1年8ヶ月未満」層の割合が高く、“淀川河川敷”で全野宿期間が「3年8ヶ月以上」の割合が高いことが分かる。

各公園地域変数（7 類型）の分布（傾向）としては、他の公園地域と比較して、“大阪城公園”は全野宿期間が比較的短い（「8ヶ月未満」層の割合が高く、“長居公園”は全野宿期間が短・中期（「8ヶ月未満」と「8ヶ月以上1年8ヶ月未満」層の割合が高く、“北部”、“天王寺”、“浪速西成”では全野宿期間が中期（「8ヶ月以上1年8ヶ月未満」と「1年8ヶ月以上3年8ヶ月未満」層の割合が高く、“淀川河川敷”、“その他周辺”は中・長期（「1年8ヶ月以上3年8ヶ月未満」と「3年8ヶ月以上」層の割合が高いといえる。

9.1.5 公園地域変数（7 類型）と野宿場所選択理由

聞き取り場所と野宿場所が同じと考えると^{注2}、公園地域変数（野宿場所変数）と野宿場所選択理由には有意な関係があると推測される。そこで以下、「環境」、「生活」、「仕事」、「人間関係」という四つの野宿場所選択理由と公園地域変数の関係をみる^{注3}。まず始めに、野宿生活をせざるを得ない状況に置かれたとき、野宿場所を選択する理由「なし」と回答している野宿生活者はどの程度存在するのだろうか。（表 9.3）を見ると、公園地域変数に関わらず野宿場所選択理由「なし」と回答している割合は約 1 割以下となっている。つまり、約 9 割の野宿生活者が何らかの理由で野宿場所を選択しているといえる。それでは、野宿場所を決めるときどのような点を重視しているのだろうか。以下、野宿場所選択理由「あり」と回答している者を対象に選択理由を見ていく。

（表 9.4）を見ると、公園地域変数と野宿場所選択理由「環境」には有意な関係性をみることはできない。また「生活が便利だから」と回答している割合が、“その他周辺”で非常に高く、“北部”でも高い。一方、“天王寺”、“長居公園”でその割合は低い。そして、「仕事上都合がいいから」と回答している割合が、“浪速西成”で非常に高く、“その他周辺”でも高い。一方、“大阪城公園”では低い。最後に、野宿場所選択理由として「人間関係」と回答している割合が、“浪速西成”、“大阪城公園”で高く、“北部”で低い。

以上を公園地域変数（7 類型）ごとにまとめると、他の公園地域とくらべて、“浪速西成”は「仕事」と「人間関係」に

注² 第 II 部第 1 章でものべたが、公園地域変数の母数の 532 名のうち、7 名は野宿場所と聞き取り場所が異なる。

注³ 野宿場所選択理由として、「環境」、「生活」、「仕事」、「人間関係」をあげたが、具体的には第 I 部第 2 章表 2.3 を参照

度数 列%	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	行合計 比率
理由あり	71 97.3 %	62 89.9 %	116 93.5 %	107 92.2 %	67 93.1 %	31 91.2 %	36 97.3 %	490 93.3 %
理由なし	2 2.7 %	7 10.1 %	8 6.5 %	9 7.8 %	5 6.9 %	3 8.8 %	1 2.7 %	35 6.7 %
列合計 比率	73 13.9 %	69 13.1 %	124 23.6 %	116 22.1 %	72 13.7 %	34 6.5 %	37 7.0 %	525 100.0 %
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq						
Likelihood Ratio	5.115	0.5291						
Pearson	4.58	0.5987						

表 9.3: 地域変数（7 類型）と野宿場所選択理由有無

度数 行% 列%	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	行合計 比率
環境	30 14.4 % 42.3 %	27 12.9 % 43.5 %	46 22.0 % 39.7 %	47 22.5 % 43.9 %	24 11.5 % 35.8 %	17 8.1 % 54.8 %	18 8.6 % 50.0 %	209 100.0 % 42.7 %
生活	22 12.6 % 31.0 %	11 6.3 % 17.7 %	29 16.7 % 25.0 %	41 23.6 % 38.3 %	33 19.0 % 49.3 %	14 8.0 % 45.2 %	24 13.8 % 66.7 %	174 100.0 % 35.5 %
仕事	17 32.1 % 23.9 %	4 7.5 % 6.5 %	12 22.6 % 10.3 %	3 5.7 % 2.8 %	5 9.4 % 7.5 %	4 7.5 % 12.9 %	8 15.1 % 22.2 %	53 100.0 % 10.8 %
人間関係	34 19.0 % 47.9 %	23 12.8 % 37.1 %	42 23.5 % 36.2 %	46 25.7 % 43.0 %	16 8.9 % 23.9 %	9 5.0 % 29.0 %	9 5.0 % 25.0 %	179 100.0 % 36.5 %
その他	18 11.1 % 25.4 %	22 13.6 % 35.5 %	38 23.5 % 32.8 %	40 24.7 % 37.4 %	23 14.2 % 34.3 %	13 8.0 % 41.9 %	8 4.9 % 22.2 %	162 100.0 % 33.1 %
列合計 比率	71 14.5 %	62 12.7 %	116 23.7 %	107 21.8 %	67 13.7 %	31 6.3 %	36 7.3 %	490 100.0 %

表 9.4: 公園地域変数（7 類型）と野宿場所選択理由

重点をおいて野宿場所を選択している野宿生活者が多く、“天王寺”は「生活」に重点をおいて野宿場所を選択している野宿生活者が少ない。また、“長居公園”は「生活」に重点をおいて野宿場所を選択している野宿生活者が少なく、“大阪城公園”は「仕事」よりも「人間関係」に重点をおいて野宿場所を選択している野宿生活者が多く、“北部”は、「人間関係」に重点をおいて野宿場所を選択している野宿生活者が少なく、「生活」に重点をおいている者が多い。“淀川河川敷”においては各選択理由ともに、全体の分布と大差は見られなかった。“その他周辺”は「生活」と「仕事」両方に重点をおいて野宿場所を選択している野宿生活者が多いということが分かる。

以上、野宿場所選択理由と公園地域変数の関係を見たが、では実際にそれぞれの地域（7 類型）で居住している野宿生活者、野宿生活自体にどのようなちがいがあるか、野宿場所選択理由で地域変数（7 類型）と有意な関係があった「生活」、「仕事」、「人間関係」の三つ、そして「行政施策（行政とのかかわり）」を加えた四つの側面から以下分析していく。

9.1.6 公園地域変数（7 類型）と人間関係

ここで言う「人間関係」とは三種類の人間関係を示す。具体的には、「同居人」、「野宿生活者」、「地域住民・一般市民」の三つである。

公園地域変数（7 類型）と同居人

（表 9.5）を見ると、全体的な傾向として「一人」で生活していると回答している割合が7割から9割と非常に高くなっている。しかしその中でも、“北部”と“淀川河川敷”では「一人」で生活している割合は比較的低い。“北部”で「友人・知り合い」、「妻など親族」と同居している野宿生活者の割合が非常に高く、また、“淀川河川敷”で「友人・知り合い」と同居している割合が高いということが分かる。一方、“長居公園”では「妻など親族」と同居している割合が低い。“その他周辺”では「友人・知り合い」と同居している人は一人もいない。

度数 列%	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	行合計 比率
一人	68 89.5 %	64 91.4 %	116 93.5 %	101 84.9 %	52 72.2 %	27 79.4 %	34 91.9 %	462 86.8 %
友人・知り合い	4 5.3 %	4 5.7 %	6 4.8 %	9 7.6 %	11 15.3 %	5 14.7 %	0 0.0 %	39 7.3 %
妻・親族	4 5.3 %	2 2.9 %	2 1.6 %	9 7.6 %	9 12.5 %	2 5.9 %	3 8.1 %	31 5.8 %
列合計 比率	76 14.3 %	70 13.2 %	124 23.3 %	119 22.4 %	72 13.5 %	34 6.4 %	37 7.0 %	532 100.0 %
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq						
Likelihood Ratio	28.814	0.0042						
Pearson	27.54	0.0065						

表 9.5: 公園地域変数（7 類型）と同居人

公園地域変数（7 類型）と野宿生活者

次に野宿生活者同士の関係（野宿生活者のつきあい）をみると、（表 9.6）より、“北部”、“大阪城公園”で野宿者間のつきあいが「ある」と回答している割合が高いのに対して、“長居公園”では野宿者間のつきあいが「ある」と回答している割合が低いということが分かる。“長居公園”で低いと述べたが、それでも7割の野宿生活者がつきあい「あり」と回答している。

度数 列%	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	行合計 比率
あり	64 84.2 %	58 82.9 %	88 71.0 %	104 88.1 %	68 94.4 %	27 79.4 %	29 78.4 %	438 82.5 %
なし	12 15.8 %	12 17.1 %	36 29.0 %	14 11.9 %	4 5.6 %	7 20.6 %	8 21.6 %	93 17.5 %
列合計 比率	76 14.3 %	70 13.2 %	124 23.4 %	118 22.2 %	72 13.6 %	34 6.4 %	37 7.0 %	531 100.0 %
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq						
Likelihood Ratio	22.808	0.0009						
Pearson	21.939	0.0012						

表 9.6: 公園地域変数（7 類型）と野宿生活者間のつきあい

そこで、野宿生活者間のつきあいの内容を以下で見ていく。（表 9.7）を見ると、“大阪城公園”では「生活上」と回答している割合が高い。それ以外の公園地域変数では特徴的な傾向は示されていない。

また、野宿生活者間のつきあいの内容は複数選択可能である。一人の野宿生活者が野宿生活者間のつきあい内容に関して何項目「あり」と回答しているかにより、そのつきあいの多様性について見ていくことができる。そこで、各公園地域ごとの一人当たりの選択数を見る（表 9.8）と、全地域で 1.51 項目選択しているのに対して、“大阪城公園”で 1.64、“その他周辺”で 1.59 と高く、“長居公園”で 1.38、“天王寺”で 1.39 と低くなっている。

以上野宿生活者間のつきあいをまとめると、各公園地域と比べて、“大阪城公園”では野宿生活者間のつきあい「あり」と回答している割合が高く、その内容を見ると、「生活上」での助け合いを中心に多面的な付き合いをしているというこ

度数 行% 列%	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	行合計 比率
仕事上	13 14.9 % 20.6 %	10 11.5 % 17.5 %	17 19.5 % 19.3 %	20 23.0 % 19.4 %	17 19.5 % 25.4 %	6 6.9 % 23.1 %	4 4.6 % 13.8 %	87 100.0 % 20.1 %
生活上	40 15.6 % 63.5 %	29 11.3 % 50.9 %	46 18.0 % 52.3 %	73 28.5 % 70.9 %	35 13.7 % 52.2 %	15 5.9 % 57.7 %	18 7.0 % 62.1 %	256 100.0 % 59.1 %
余暇・娯楽	27 13.4 % 42.9 %	25 12.4 % 43.9 %	41 20.3 % 46.6 %	50 24.8 % 48.5 %	30 14.9 % 44.8 %	12 5.9 % 46.2 %	17 8.4 % 58.6 %	202 100.0 % 46.7 %
その他	8 17.0 % 12.7 %	7 14.9 % 12.3 %	8 17.0 % 9.1 %	10 21.3 % 9.7 %	10 21.3 % 14.9 %	0 0.0 % 0.0 %	4 8.5 % 13.8 %	47 100.0 % 10.9 %
あいさつ程度	10 16.1 % 15.9 %	8 12.9 % 14.0 %	9 14.5 % 10.2 %	16 25.8 % 15.5 %	11 17.7 % 16.4 %	5 8.1 % 19.2 %	3 4.8 % 10.3 %	62 100.0 % 14.3 %
列合計 比率	63 14.5 %	57 13.2 %	88 20.3 %	103 23.8 %	67 15.5 %	26 6.0 %	29 6.7 %	433 100.0 %

表 9.7: 公園地域変数（7 類型）と野宿生活者間のつきあい内容

項目	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	合計
選択数合計	98	79	121	169	103	38	46	654
有効回答者数	63	57	88	103	67	26	29	433
一人当たりの回答項目数	1.56	1.39	1.38	1.64	1.54	1.46	1.59	1.51

表 9.8: 公園地域変数（7 類型）と野宿者間のつきあい内容選択数

とができる。また、“北部”では野宿生活者間のつきあい「あり」と回答している割合が高い。“長居公園”では、野宿生活者間のつきあい「あり」と回答している割合が低く、その内容を見ると、「生活上」、「余暇・娯楽」と約5割の野宿生活者が回答しており、一人当たりのつきあい内容選択数の低さから、限定的なつきあいをしている割合が高いとすることができる。“その他周辺”では、一人当たりのつきあい内容選択数から、多面的なつきあいをしている割合が高い。“天王寺”では、一人当たりのつきあい内容選択数の低さから、限定的なつきあいをしている割合が高いとすることができる。

公園地域変数（7 類型）と地域住民・一般市民

次に、野宿生活者と地域住民・一般市民の関係性を公園地域別に見ていく。ここで、地域住民・一般市民と野宿生活者のかかわりについての指標として、プラスな関係性の意味をもつ「親切」、マイナスな関係性の意味をもつ「トラブル」、「暴力」の三つの項目の経験の有無について見ていく。

まず「親切」経験の有無について見ていく。（表 9.9）を見ると、公園地域変数と「親切」経験の有無に有意な関係性をみることはできない。ただ、「親切」経験「あり」と回答している割合が、高い地域（“天王寺”）で約6割、低い地域（“大阪城公園”）で約4割も存在していた。この数字をみると、既に第I部第5章（29 ページ）で述べているように、公園地域に関係なく地域住民・一般市民の間には、野宿生活者に対して「理解」や「同情」している人が半数も存在するということが分かった。

度数 列%	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	行合計 比率
あり	38 51.4 %	41 59.4 %	65 52.4 %	49 41.5 %	39 54.9 %	14 43.8 %	18 48.6 %	264 50.3 %
なし	36 48.6 %	28 40.6 %	59 47.6 %	69 58.5 %	32 45.1 %	18 56.3 %	19 51.4 %	261 49.7 %
列合計 比率	74 14.1 %	69 13.1 %	124 23.6 %	118 22.5 %	71 13.5 %	32 6.1 %	37 7.0 %	525 100.0 %
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq						
Likelihood Ratio	7.417	0.284						
Pearson	7.384	0.2868						

表 9.9: 公園地域変数（7 類型）と親切経験

それでは、次に野宿生活者と地域住民・一般市民のマイナスの相互関係である「トラブル」経験の有無について見ていく。(表9.10)を見ると、トラブル経験「あり」と回答している割合が、“天王寺”、“その他周辺”で高く、“長居公園”で低い。また、「暴力」経験の有無を見る(表9.11)と、暴力経験「あり」と回答している割合が、“天王寺”、“その他周辺”で高く、“北部”で低い。

度数 列%	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	行合計 比率
あり	6 8.1%	12 17.1%	5 4.0%	14 11.9%	6 8.7%	3 9.1%	6 16.2%	52 9.9%
なし	68 91.9%	58 82.9%	119 96.0%	104 88.1%	63 91.3%	30 90.9%	31 83.8%	473 90.1%
列合計 比率	74 14.1%	70 13.3%	124 23.6%	118 22.5%	69 13.1%	33 6.3%	37 7.0%	525 100.0%
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq						
Likelihood Ratio	11.812	0.0663						
Pearson	11.466	0.075						

表9.10: 公園地域変数(7類型)とトラブル経験

度数 列%	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	行合計 比率
あり	16 21.6%	24 34.3%	34 27.4%	26 22.0%	11 15.5%	10 30.3%	14 37.8%	135 25.6%
なし	58 78.4%	46 65.7%	90 72.6%	92 78.0%	60 84.5%	23 69.7%	23 62.2%	392 74.4%
列合計 比率	74 14.0%	70 13.3%	124 23.5%	118 22.4%	71 13.5%	33 6.3%	37 7.0%	527 100.0%
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq						
Likelihood Ratio	11.546	0.0729						
Pearson	11.487	0.0745						

表9.11: 公園地域変数(7類型)と暴力経験

以上、野宿生活者と地域住民・一般市民の関係を見てきた。公園・地域に関係なく「親切」にしてもらった経験のある野宿生活者がいるのに対し、“天王寺”は地域住民・一般市民との摩擦、「トラブル」、「暴力」の経験が「ある」と回答している野宿生活者の割合が高い。また、“その他周辺”でも「暴力」を受けた経験が「ある」と回答している野宿生活者の割合が高い。それに対して、“長居公園”では「トラブル」経験「あり」と回答している野宿生活者の割合が、“北部”では「暴力」経験「あり」と回答している野宿生活者の割合が低い。

このように、野宿生活者との関係性で、「同居者」、「野宿生活者」、「地域住民・一般市民」という三つの「人間関係」を公園地域変数別に見てきた。各公園地域別に社会関係をその他の公園地域変数と比較してまとめると、“淀川河川敷”では「友人・知り合い」と同居している割合が高い。“北部”では「友人・知り合い」または「妻・親族」と同居して、他の野宿生活者とのつきあい「あり」と回答している割合が高い。“長居公園”では「一人」で生活しており、他の野宿生活者とのつきあい「なし」、地域住民・一般市民とトラブル経験「なし」と回答している割合が高い。他の地域と比べて、社会関係が希薄であることが分かる。“天王寺”では「一人」で生活しており、地域住民・一般市民とトラブル、暴力経験「あり」と回答している割合が高い。“その他周辺”では、「友人・知り合い」と同居しているという野宿生活者が一人もおらず、地域住民・一般市民と暴力経験「あり」と回答している割合が高い。

9.1.7 公園地域変数（7 類型）と仕事

公園地域変数（7 類型）と仕事の有無

度数 列%	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	行合計 比率
あり	67 89.3 %	62 88.6 %	112 90.3 %	94 79.0 %	64 88.9 %	25 73.5 %	31 83.8 %	455 85.7 %
なし	8 10.7 %	8 11.4 %	12 9.7 %	25 21.0 %	8 11.1 %	9 26.5 %	6 16.2 %	76 14.3 %
列合計 比率	75 14.1 %	70 13.2 %	124 23.4 %	119 22.4 %	72 13.6 %	34 6.4 %	37 7.0 %	531 100.0 %
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq						
Likelihood Ratio	11.852	0.0654						
Pearson	12.619	0.0495						

表 9.12: 公園地域変数（7 類型）と仕事有無

公園地域変数（7 類型）と仕事の有無の関係（表 9.12）を見ると、「淀川河川敷」、「大阪城公園」で何らかの「仕事」についていると回答している割合が低い。それでも、最も低い「淀川河川敷」で約 74 %、「浪速西成」、「天王寺」、「長居公園」、「北部」では約 9 割もの野宿生活者が生きていくために何らかの仕事についている。既に第 I 部第 3 章で述べているが市民の多くが野宿生活者に対して持っている「怠け者」というイメージは、どの公園地域を見ても間違ったイメージ、偏見であることが、このデータは示していると言することができる。

公園地域変数（7 類型）と仕事内容

度数 行% 列%	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	行合計 比率
廃品回収	56 14.0 % 83.6 %	55 13.7 % 88.7 %	104 25.9 % 92.9 %	80 20.0 % 85.1 %	57 14.2 % 89.1 %	21 5.2 % 84.0 %	28 7.0 % 90.3 %	401 100.0 % 88.1 %
日雇	7 16.7 % 10.4 %	6 14.3 % 9.7 %	6 14.3 % 5.4 %	13 31.0 % 13.8 %	4 9.5 % 6.3 %	3 7.1 % 12.0 %	3 7.1 % 9.7 %	42 100.0 % 9.2 %
特別清掃	8 50.0 % 11.9 %	4 25.0 % 6.5 %	2 12.5 % 1.8 %	0 0.0 % 0.0 %	0 0.0 % 0.0 %	0 0.0 % 0.0 %	2 12.5 % 6.5 %	16 100.0 % 3.5 %
その他	7 15.2 % 10.4 %	7 15.2 % 11.3 %	5 10.9 % 4.5 %	9 19.6 % 9.6 %	13 28.3 % 20.3 %	4 8.7 % 16.0 %	1 2.2 % 3.2 %	46 100.0 % 10.1 %
列合計 比率	67 14.7 %	62 13.6 %	112 24.6 %	94 20.7 %	64 14.1 %	25 5.5 %	31 6.8 %	455 100.0 %

表 9.13: 公園地域変数（7 類型）と仕事内容

次に、公園地域変数（7 類型）と仕事内容を見ていく。（表 9.13）を見ると、どの公園地域変数も、主要な仕事として約 85 %以上の野宿生活者が「廃品回収」に従事していることが分かる。また、仕事内容「日雇」について見ると、各公園地域でちがいは見られなかった。これを見ると、「日雇」につけている野宿生活者は、テント層で「仕事についている」と回答している 455 人中、42 人と約 1 割にしか満たないものの、寄せ場である釜ヶ崎との距離に関係なく分布していることが分かる。次に「特別清掃」を見ると、釜ヶ崎を中心としての仕事という性質上、「浪速西成」で割合が高くなっている。仕事内容「その他」^{注4}と回答している割合が「北部」で高くなっている。

公園地域変数（7 類型）と収入

次に、公園地域別に聞き取り調査を行った時点での 1 ヶ月の収入を見ていく。

^{注4} 「その他」の仕事内容は具体的には、「テキ屋」、「露天商」などが多い。

(図9.6)を見ると、他の公園地域と比べて、“淀川河川敷”では収入「1万円未満」層の割合が非常に高い。また、“その他周辺”では低収入層（「2万円以上3万円未満」層と「3万円以上4万円未満」層）の割合が低く、収入「6万円以上」層の割合が高い。“天王寺”では極貧層（「1万円未満」層と「1万円以上2万円未満」層）の割合が低く、「3万円以上4万円未満」層の割合が高い。

このように公園地域で分布に特徴はあるものの、“天王寺”、“その他周辺”を除く公園地域では、野宿生活者の約4割が収入2万円未満という非常に厳しい生活をおくっていることは事実である。

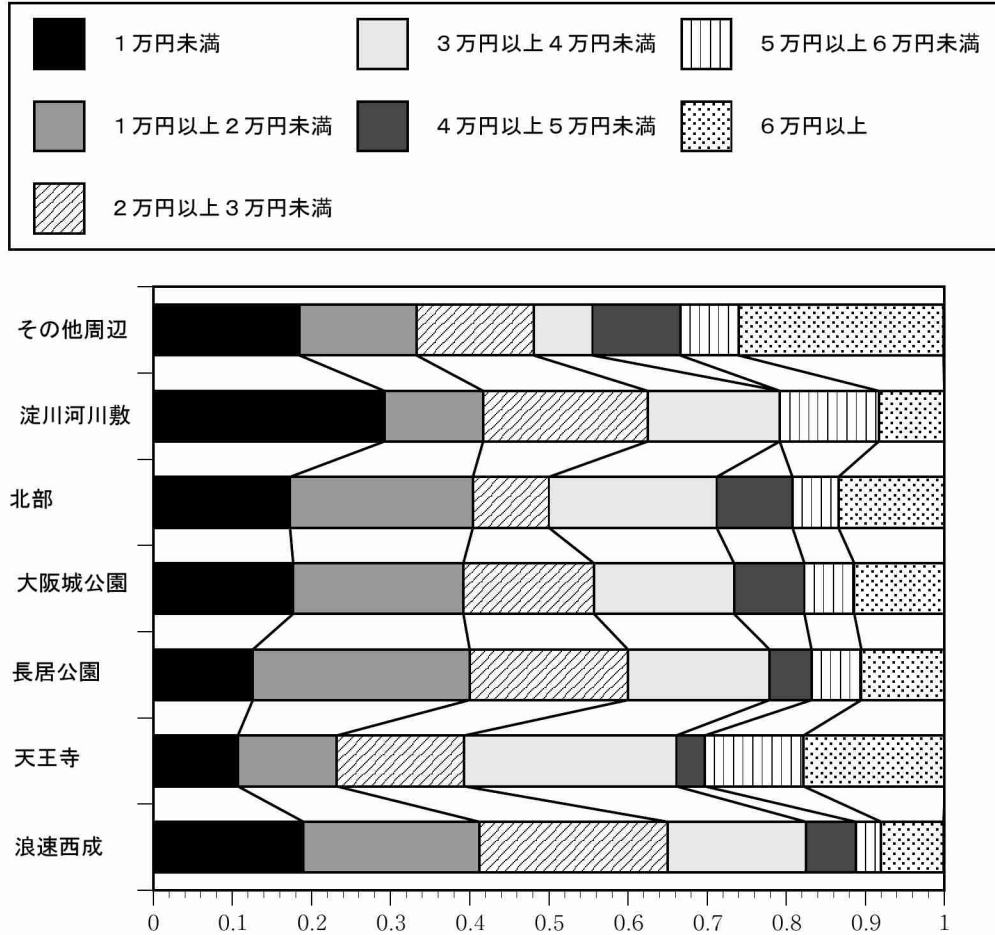


図9.6: 地域別収入平均

公園地域変数（7 類型）と廃品回収

次に、野宿生活者の約85%近くが従事している廃品回収について、収入を決定すると思われる、廃品回収品目、廃品回収手段、廃品回収就労日数の三つの項目について見ていく。

公園地域変数（7 類型）と廃品回収品目

まず始めに、廃品回収品目について見ていく。廃品回収品目が異なれば、単価が異なる^{注5}。そしてそれは収入にも影響を及ぼすものと考えられる。

(表9.14)を見ると、全体的な傾向として、いずれの公園地域でも、廃品回収の主要品目は「アルミ缶」で、“その他周辺”をのぞいて廃品回収をしている野宿生活者の約8割程度が回収している。公園地域変数別に見ると、「ダンボール」を集めている割合が、“浪速西成”と“その他周辺”で高く、“長居公園”、“大阪城公園”で低い。「アルミ缶」を集めていると回答している割合は、公園地域で大差はなかった。「雑誌・新聞」を集めていると回答している割合は、“浪速西成”、“北部”で高く、“天王寺”で低い。「銅線」を集めていると回答している割合は、“浪速西成”、“その他周辺”で高く、“大阪城公園”、“北部”で低い。「粗大ごみ」は各公園地域でちがいは見られない。「その他」を回収していると回答している割合が、“浪速西成”で高く、“大阪城公園”で低い。

また、(表9.15)を見ると、廃品回収品目の選択数が“浪速西成”で1.98と高い。これは、他の地域と比べて、“浪速西成”では野宿生活者の密度が高い^{注6}ため、廃品回収に従事している野宿生活者間で競争が生じ、一種類の廃品回収品

注5 聞き取り調査時点では、アルミ缶はキロ80円、ダンボールはキロ4円、銅線はキロ100円程度。

注6 1998年大阪市が行った「野宿者概数・概況調査」を参照のこと

度数 行% 列%	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	行合計 比率
ダンボール	9 39.1 % 16.1 %	5 21.7 % 9.1 %	0 0.0 % 0.0 %	1 4.3 % 1.3 %	3 13.0 % 5.3 %	1 4.3 % 4.8 %	4 17.4 % 14.3 %	23 100.0 % 5.8 %
アルミ缶	45 14.1 % 80.4 %	44 13.8 % 80.0 %	79 24.7 % 76.0 %	67 20.9 % 84.8 %	49 15.3 % 86.0 %	18 5.6 % 85.7 %	18 5.6 % 64.3 %	320 100.0 % 80.0 %
雑誌・新聞	8 28.6 % 14.3 %	0 0.0 % 0.0 %	5 17.9 % 4.8 %	4 14.3 % 5.1 %	7 25.0 % 12.3 %	3 10.7 % 14.3 %	1 3.6 % 3.6 %	28 100.0 % 7.0 %
銅線	18 27.7 % 32.1 %	10 15.4 % 18.2 %	13 20.0 % 12.5 %	7 10.8 % 8.9 %	5 7.7 % 8.8 %	4 6.2 % 19.0 %	8 12.3 % 28.6 %	65 100.0 % 16.3 %
粗大ごみ	22 14.7 % 39.3 %	17 11.3 % 30.9 %	44 29.3 % 42.3 %	32 21.3 % 40.5 %	16 10.7 % 28.1 %	6 4.0 % 28.6 %	13 8.7 % 46.4 %	150 100.0 % 37.5 %
その他	9 33.3 % 16.1 %	5 18.5 % 9.1 %	7 25.9 % 6.7 %	1 3.7 % 1.3 %	3 11.1 % 5.3 %	1 3.7 % 4.8 %	1 3.7 % 3.6 %	27 100.0 % 6.8 %
列合計 比率	56 14.0 %	55 13.8 %	104 26.0 %	79 19.8 %	57 14.3 %	21 5.3 %	28 7.0 %	400 100.0 %

表 9.14: 公園地域変数（7 類型）と廃品回収品目

目を集めているだけでは「一定」程度の収入を得られないため、また、多種多様な廃品回収品目を換金する手段（寄せ屋等）があるためなど理由として考えられる。

項目	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	合計
選択数合計	111	81	148	112	83	33	45	613
有効回答者数	56	55	104	79	57	21	28	400
一人当たりの回答項目数	1.98	1.47	1.42	1.42	1.46	1.57	1.61	1.53

表 9.15: 公園地域変数（7 類型）と廃品回収品目選択数

以上をまとめると、他の公園地域と比較して、“浪速西成”は「ダンボール」、「雑誌・新聞」、「銅線」、「その他」を集めている割合が高い。“天王寺”では「雑誌・新聞」を、また、“長居公園”では「ダンボール」を回収している野宿生活者は一人もいない。これ以外には、“天王寺”、長居公園において廃品回収品目に大差は見られなかった。“大阪城公園”では回収している品目が、「アルミ缶」、「粗大ごみ」の二種類に集中している。“北部”では「新聞・雑誌」を回収している割合が高く、「銅線」を回収している割合が低い。“その他周辺”は「ダンボール」、「銅線」の割合が高い。

公園地域変数（7 類型）と廃品回収手段

先にも述べたように、廃品回収品目は様々である。それでは、それら回収品を集めるにあたりどのような手段を用いているのであろうか。（表 9.16）を見ると、公園地域に関係なく、廃品回収に従事している野宿生活者の約 9 割以上が何らかの廃品回収手段を持っていることが分かる。

度数 列%	“その他周辺”	“大阪城公園”	“長居公園”	“天王寺”	“北部”	“淀川河川敷”	“浪速西成”	行合計 比率
廃品回収 手段あり	25 96.2 %	69 100.0 %	88 97.8 %	45 93.8 %	50 98.0 %	17 89.5 %	51 98.1 %	345 97.2 %
廃品回収 手段なし	1 3.8 %	0 0.0 %	2 2.2 %	3 6.3 %	1 2.0 %	2 10.5 %	1 1.9 %	10 2.8 %
列合計 比率	26 7.3 %	69 19.4 %	90 25.4 %	48 13.5 %	51 14.4 %	19 5.4 %	52 14.6 %	355 100.0 %
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq						
Likelihood Ratio	8.489	0.2044						
Pearson	8.697	0.1914						

表 9.16: 公園地域変数（7 変数）と廃品回収手段有無

以下、野宿生活状況下で、効率的に集めるために、どのような廃品回収手段を用いているのかについて見ていく。廃品回収手段が異なると、廃品回収品目、廃品回収品目の量に、さらには収入にも影響してくると考えられる。（表 9.17）を

見ると、自転車を利用して廃品回収を行っている野宿生活者が、「浪速西成」、「長居公園」、「大阪城公園」では約9割ある。「自転車」を用いる利点を考えたところ、移動範囲が広くなることであると考えられる。これは、野宿生活をおくっている場所では、廃品回収品獲得の競争が厳しい、もしくは廃品回収品を獲得できる場所が少ないなどの理由により、廃品回収品量が少ないため、広範囲に廃品回収品を探さなければならないことによると考えられる。それに対して、「天王寺」、「北部」では「台車」を利用している割合が高く、「その他周辺」では「リヤカー」を利用している割合が高い。

度数 行% 列%	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	行合計 比率
リヤカー	5 18.5 % 9.8 %	5 18.5 % 11.1 %	3 11.1 % 3.4 %	2 7.4 % 2.9 %	6 22.2 % 12.0 %	0 0.0 % 0.0 %	6 22.2 % 24.0 %	27 100.0 % 7.8 %
台車	10 22.2 % 19.6 %	10 22.2 % 22.2 %	6 13.3 % 6.8 %	4 8.9 % 5.8 %	11 24.4 % 22.0 %	0 0.0 % 0.0 %	4 8.9 % 16.0 %	45 100.0 % 13.0 %
自転車	45 15.0 % 88.2 %	37 12.3 % 82.2 %	81 27.0 % 92.0 %	64 21.3 % 92.8 %	37 12.3 % 74.0 %	17 5.7 % 100.0 %	19 6.3 % 76.0 %	300 100.0 % 87.0 %
その他	0 0.0 % 0.0 %	0 0.0 % 0.0 %	0 0.0 % 0.0 %	2 66.7 % 2.9 %	1 33.3 % 2.0 %	0 0.0 % 0.0 %	0 0.0 % 0.0 %	3 100.0 % 0.9 %
列合計 比率	51 14.8 %	45 13.0 %	88 25.5 %	69 20.0 %	50 14.5 %	17 4.9 %	25 7.2 %	345 100.0 %

表 9.17: 公園地域変数（7 類型）と廃品回収手段

公園地域変数（7 類型）と廃品回収就労日数

次に、公園地域変数（7 類型）と廃品回収就労日数について見ていく。

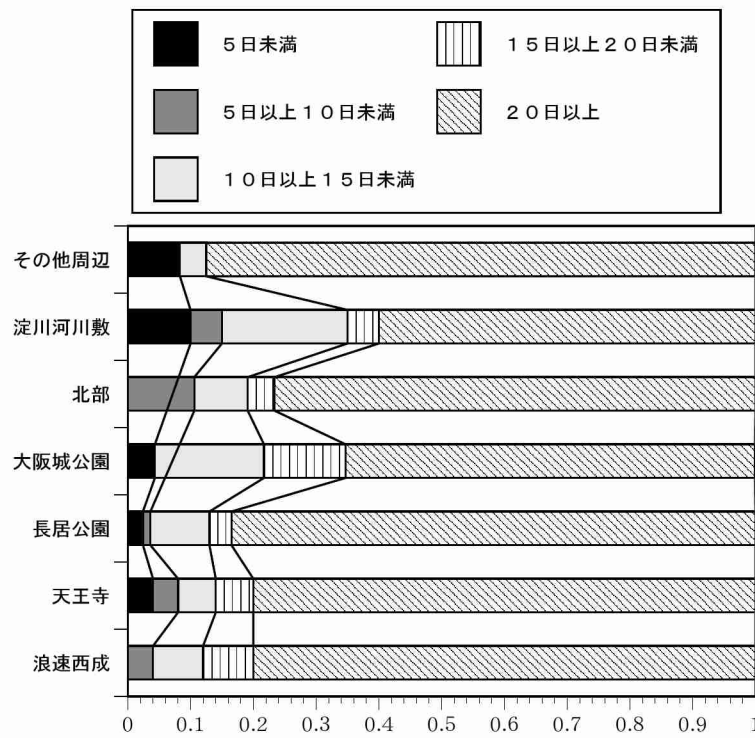


図 9.7: 地域別廃品回収日数

（図 9.7）を見ても分かるように、「大阪城公園」、「北部」、「淀川河川敷」を除いた地域は、「20 日以上」廃品回収業に従事している割合が、8 割を超えている。また他の公園地域と比べて、「大阪城公園」では廃品回収業に従事している野宿生活者のうち、「10 日以上 15 日未満」と「15 日以上 20 日未満」廃品回収をしている割合が高く、「北部」では「5 日以上 10 日未満」廃品回収をしている割合が高く、「淀川河川敷」では「5 日未満」と「10 日以上 15 日未満」層の割合が高くなっている。

公園地域変数（7 類型）と求職活動

公園地域変数（7 類型）と求職活動有無

公園地域変数（7 類型）と聞き取り調査時点での求職活動の有無の関係を見ていく。今回の聞き取り調査全体で、求職活動をしている野宿生活者は約 5 割である。この数字を少ないと判断してよいものだろうか。先の廃品回収就労日数でも述べたが（160 ページ）、その日を「ギリギリ」のところで生きていくために廃品回収を 20 日以上従事している中で、野宿生活から抜け出すために求職活動を行っていかねばならないという現実を把握したならそのような事は言えないのではないだろうか。

（表 9.18）を見ると、“浪速西成”で「求職活動をしている」と回答した割合が高く、“長居公園”で低い。

度数 列%	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	行合計 比率
求職活動 している	44 58.7 %	36 52.2 %	41 33.3 %	63 53.4 %	29 40.8 %	14 41.2 %	15 41.7 %	242 46.0 %
求職活動 していない	31 41.3 %	33 47.8 %	82 66.7 %	55 46.6 %	42 59.2 %	20 58.8 %	21 58.3 %	284 54.0 %
列合計 比率	75 14.3 %	69 13.1 %	123 23.4 %	118 22.4 %	71 13.5 %	34 6.5 %	36 6.8 %	526 100.0 %
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq						
Likelihood Ratio	17.975	0.0063						
Pearson	17.792	0.0068						

表 9.18: 公園地域変数（7 類型）と求職活動の有無

公園地域変数（7 類型）と求職活動手段

それでは、どのような方法を用いて求職活動を行っているのだろうか。（表 9.19）を見ると、各公園地域によって求職活動手段にちがいが見られる。他の公園地域と比べて、“浪速西成”と“天王寺”では「センター」で求職活動をしている割合が非常に高く、“浪速西成”、“淀川河川敷”では「職安」で求職活動している割合が低い。“浪速西成”で「職安」の割合が低いのは、「センター」が「職安」の役目を果たしているためである。“大阪城公園”と“北部”では「求人誌・新聞」を用いて、“淀川河川敷”では「雇用者に直接頼む」、「その他周辺」では「知り合いに頼む」割合が高くなっている。

度数 行% 列%	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	行合計 比率
センター	38 27.7 % 86.4 %	28 20.4 % 80.0 %	21 15.3 % 51.2 %	30 21.9 % 47.6 %	11 8.0 % 37.9 %	4 2.9 % 28.6 %	5 3.6 % 33.3 %	137 100.0 % 56.8 %
職安	3 6.4 % 6.8 %	5 10.6 % 14.3 %	11 23.4 % 26.8 %	16 34.0 % 25.4 %	8 17.0 % 27.6 %	0 0.0 % 0.0 %	4 8.5 % 26.7 %	47 100.0 % 19.5 %
求人誌・新聞	5 8.5 % 11.4 %	3 5.1 % 8.6 %	11 18.6 % 26.8 %	22 37.3 % 34.9 %	12 20.3 % 41.4 %	5 8.5 % 35.7 %	1 1.7 % 6.7 %	59 100.0 % 24.5 %
知り合い	4 8.2 % 9.1 %	6 12.2 % 17.1 %	7 14.3 % 17.1 %	15 30.6 % 23.8 %	8 16.3 % 27.6 %	3 6.1 % 21.4 %	6 12.2 % 40.0 %	49 100.0 % 20.3 %
直接雇用者	5 19.2 % 11.4 %	2 7.7 % 5.7 %	5 19.2 % 12.2 %	4 15.4 % 6.3 %	2 7.7 % 6.9 %	5 19.2 % 35.7 %	3 11.5 % 20.0 %	26 100.0 % 10.8 %
その他	3 23.1 % 6.8 %	2 15.4 % 5.7 %	0 0.0 % 0.0 %	4 30.8 % 6.3 %	3 23.1 % 10.3 %	0 0.0 % 0.0 %	1 7.7 % 6.7 %	13 100.0 % 5.4 %
列合計 比率	44 18.3 %	35 14.5 %	41 17.0 %	63 26.1 %	29 12.0 %	14 5.8 %	15 6.2 %	241 100.0 %

表 9.19: 公園地域変数（7 類型）と求職活動手段

9.1.8 公園地域変数（7 類型）と生活

公園地域変数（7 類型）と食事

公園地域変数（7 類型）と食事獲得方法の関係について見ていく。（表 9.20）を見ると、食事獲得方法として「炊き出し」と回答している割合は、“浪速西成”で高い。これは、ボランティア・支援団体が定期的に「炊き出し」を行っているのが釜ヶ崎地区内・周辺ということが一つの原因と考えられる。また「自炊」と回答している割合は、“浪速西成”で高く、“長居公園”で低い。「食堂・弁当」と回答している割合は、“長居公園”で高く、“淀川河川敷”で低くなっている。「廃棄食品」と回答している割合は、“北部”と“淀川河川敷”で高く、“浪速西成”と“天王寺”で低い。

度数 行% 列%	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	行合計 比率
炊き出し	14 51.9 % 18.4 %	3 11.1 % 4.3 %	3 11.1 % 2.4 %	2 7.4 % 1.7 %	3 11.1 % 4.2 %	0 0.0 % 0.0 %	2 7.4 % 5.4 %	27 100.0 % 5.1 %
自炊	60 16.3 % 78.9 %	54 14.6 % 77.1 %	74 20.1 % 59.7 %	84 22.8 % 71.8 %	51 13.8 % 70.8 %	20 5.4 % 60.6 %	26 7.0 % 70.3 %	369 100.0 % 69.8 %
食堂・弁当	19 12.8 % 25.0 %	19 12.8 % 27.1 %	49 33.1 % 39.5 %	28 18.9 % 23.9 %	16 10.8 % 22.2 %	5 3.4 % 15.2 %	12 8.1 % 32.4 %	148 100.0 % 28.0 %
廃棄食品	8 5.0 % 10.5 %	13 8.1 % 18.6 %	37 23.0 % 29.8 %	42 26.1 % 35.9 %	31 19.3 % 43.1 %	19 11.8 % 57.6 %	11 6.8 % 29.7 %	161 100.0 % 30.4 %
残飯	8 23.5 % 10.5 %	2 5.9 % 2.9 %	6 17.6 % 4.8 %	6 17.6 % 5.1 %	6 17.6 % 8.3 %	1 2.9 % 3.0 %	5 14.7 % 13.5 %	34 100.0 % 6.4 %
仲間からわけてもらう	12 11.9 % 15.8 %	10 9.9 % 14.3 %	18 17.8 % 14.5 %	26 25.7 % 22.2 %	15 14.9 % 20.8 %	10 9.9 % 30.3 %	10 9.9 % 27.0 %	101 100.0 % 19.1 %
その他	10 20.8 % 13.2 %	7 14.6 % 10.0 %	11 22.9 % 8.9 %	7 14.6 % 6.0 %	7 14.6 % 9.7 %	4 8.3 % 12.1 %	2 4.2 % 5.4 %	48 100.0 % 9.1 %
列合計 比率	76 14.4 %	70 13.2 %	124 23.4 %	117 22.1 %	72 13.6 %	33 6.2 %	37 7.0 %	529 100.0 %

表 9.20: 公園地域変数（7 類型）と食事獲得方法

9.1.9 公園地域変数（7 類型）と行政（施策）

公園地域変数（7 類型）と役所への相談

（表 9.21）を見ると、役所への相談「あり」と回答している割合は“浪速西成”で高く、“大阪城公園”で低い。“浪速西成”で役所相談経験「あり」と回答している野宿生活者の割合が高くなっているのは、釜ヶ崎には他の地域の福祉事務所とは異なった「大阪市立更生相談所」が存在していること、そして、「どこに相談に行ったらよいか」という情報を得る機会が他の地域より高いためと考えられる。しかし“浪速西成”で「高い」と述べたが、それでも約3割にすぎない。

度数 列%	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	行合計 比率
ある	25 33.3 %	17 24.6 %	27 22.0 %	9 7.7 %	15 21.1 %	9 26.5 %	4 10.8 %	106 20.2 %
ない	50 66.7 %	52 75.4 %	96 78.0 %	108 92.3 %	56 78.9 %	25 73.5 %	33 89.2 %	420 79.8 %
列合計 比率	75 14.3 %	69 13.1 %	123 23.4 %	117 22.2 %	71 13.5 %	34 6.5 %	37 7.0 %	526 100.0 %
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq						
Likelihood Ratio	25.317	0.0003						
Pearson	23.389	0.0007						

表 9.21: 公園地域変数（7 類型）と野宿後の役所への相談

公園地域変数（7 類型）と臨泊利用

（表 9.22）を見ると、臨泊を利用した経験「あり」と回答している割合は、“浪速西成”、“天王寺”で高く、“大阪城公園”と“北部”で低い。これは、臨泊が釜ヶ崎地区内の越年対策であることを考慮すると、釜ヶ崎からの距離に関係していると推測される。そして、“浪速西成”よりも“天王寺”のほうが臨泊利用経験が高いのは、釜ヶ崎を経由することで情報が得られ、かつ「釜ヶ崎往還」層よりも釜ヶ崎で仕事につく機会が少なく、生活が困窮している「釜ヶ崎離脱」層の割合が高いためと考えられる。

度数 列%	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	行合計 比率
ある	11 14.9 %	12 17.4 %	16 13.3 %	3 2.6 %	3 4.3 %	1 2.9 %	4 11.1 %	50 9.6 %
ない	63 85.1 %	57 82.6 %	104 86.7 %	113 97.4 %	67 95.7 %	33 97.1 %	32 88.9 %	469 90.4 %
列合計 比率	74 14.3 %	69 13.3 %	120 23.1 %	116 22.4 %	70 13.5 %	34 6.6 %	36 6.9 %	519 100.0 %
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq						
Likelihood Ratio	22.033	0.0012						
Pearson	19.74	0.0031						

表 9.22: 公園地域変数（7 類型）と臨泊利用経験

公園地域変数（7 類型）と職業訓練

（表 9.23）を見ると、全体的には、“浪速西成”、“北部”を除いて、職業訓練を希望している割合は約 3 割しかない。これは、平均年齢が 50 歳を超えている野宿生活者が、仕事を斡旋するのではなく、今から技術を身につけることを目的とする「職業訓練」を希望する割合が低いことを意味するもので、就労意欲が低いということの意味ではない。

また、「職業訓練」を希望する割合が低いと述べたが、「職業訓練」が必要ないことをいうものではない。それは、「職業訓練を希望」と回答している割合が“北部”で約 4 割と高くなっていることから分かる。

度数 列%	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	行合計 比率
あり	26 34.7 %	18 26.5 %	30 25.2 %	31 26.7 %	30 42.3 %	12 35.3 %	6 17.1 %	153 29.5 %
なし	49 65.3 %	50 73.5 %	89 74.8 %	85 73.3 %	41 57.7 %	22 64.7 %	29 82.9 %	365 70.5 %
列合計 比率	75 14.5 %	68 13.1 %	119 23.0 %	116 22.4 %	71 13.7 %	34 6.6 %	35 6.8 %	518 100.0 %
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq						
Likelihood Ratio	11.342	0.0784						
Pearson	11.408	0.0765						

表 9.23: 公園地域変数（7 類型）と職業訓練希望

公園地域変数（7 類型）と自立支援センター

（表 9.24）を見ると、全体的に“北部”、“その他周辺”を除いて約 5 割以上の野宿生活者が「自立支援センター」を希望している。また、各公園地域ごとに見ると、「自立支援センターを希望」と回答した割合が、“北部”で高く、“その他周辺”で低い。

度数 列%	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	行合計 比率
あり	34 47.2 %	33 48.5 %	65 55.1 %	66 57.4 %	46 65.7 %	20 58.8 %	13 37.1 %	277 54.1 %
なし	38 52.8 %	35 51.5 %	53 44.9 %	49 42.6 %	24 34.3 %	14 41.2 %	22 62.9 %	235 45.9 %
列合計 比率	72 14.1 %	68 13.3 %	118 23.0 %	115 22.5 %	70 13.7 %	34 6.6 %	35 6.8 %	512 100.0 %
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq						
Likelihood Ratio	11.014	0.0879						
Pearson	10.93	0.0906						

表 9.24: 公園地域変数（7 類型）と自立支援センター希望

公園地域変数（7 類型）と生活ケアセンター

（表 9.25）を見ると、公園地域と関係なく「生活ケアセンター希望」と約 3 割から約 4 割の野宿生活者が回答している。

度数 列%	“浪速西成”	“天王寺”	“長居公園”	“大阪城公園”	“北部”	“淀川河川敷”	“その他周辺”	行合計 比率
あり	31 41.9 %	29 42.0 %	45 38.1 %	42 35.6 %	28 39.4 %	11 32.4 %	11 30.6 %	197 37.9 %
なし	43 58.1 %	40 58.0 %	73 61.9 %	76 64.4 %	43 60.6 %	23 67.6 %	25 69.4 %	323 62.1 %
列合計 比率	74 14.2 %	69 13.3 %	118 22.7 %	118 22.7 %	71 13.7 %	34 6.5 %	36 6.9 %	520 100.0 %
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq						
Likelihood Ratio	2.635	0.853						
Pearson	2.612	0.8558						

表 9.25: 公園地域変数（7 類型）と生活ケアセンター希望

9.2 小括

野宿生活者と釜ヶ崎との結びつきの度合いは、中心としての釜ヶ崎と野宿生活者の居住場所との間の空間的距離に反比例する(図9.1、図9.2、図9.3)。(図9.1)は、「釜ヶ崎往還」層、すなわち釜ヶ崎に今でも行き、センターなどで仕事を探しているという意味で、今でも釜ヶ崎とつながりを有している層である。釜ヶ崎に近い「浪速・西成」から距離が離れていくにしたがって減少していく。(図9.2)では、かつては釜ヶ崎に通っていた、あるいはそこで仕事を見つけていたが、現在では行くことがなくなった「釜ヶ崎離脱」層は、釜ヶ崎から3km前後でピークをなす。阿倍野、長居公園、西部がそれに当たり、それより遠い所では、“淀川河川敷”をのぞき、またその割合が低くなるという構造を有している。(図9.3)は、釜ヶ崎との関係を持たない「非釜ヶ崎」層の割合を表しているが、釜ヶ崎から遠ざかるにつれ、その割合が高くなる結果を示している。このように、市内公園などに居住する野宿生活者と釜ヶ崎との関係は、距離が大きくなるにつれ小さくなって行くことが明らかにされた。

公園地域別に年齢分布を見ると、“天王寺”で高齢野宿生活者の割合が高く、“淀川河川敷”で「若年」野宿生活者の割合が高い(図9.4)。

公園地域別に全野宿期間を見ると、他の公園地域と比べて、大公園(“大阪城公園”と“長居公園”)では野宿期間が比較的短い(「8ヶ月未満」と「8ヶ月以上1年8ヶ月未満」)層が、“北部”、“天王寺”、“浪速西成”では野宿期間が中期(「8ヶ月以上1年8ヶ月未満」と「1年8ヶ月以上3年8ヶ月未満」)な層が、“その他周辺”、“淀川河川敷”では野宿期間が長期(「1年8ヶ月以上3年8ヶ月未満」と「3年8ヶ月以上」)な層の割合が高い(図9.5)。

公園地域別に野宿場所選択理由を見ると、他の公園地域と比べて、“浪速西成”では「仕事」に、“大阪城公園”では「人間関係」に、“北部”では「生活」に、“その他周辺”では「生活」と「仕事」に重点をおいて野宿場所を選択している野宿生活者の割合が高い(表9.4)。

各公園地域別に社会関係を見ると、“淀川河川敷”と“北部”では「友人・知り合い」または「妻・親族」と同居している割合が高い。また、“天王寺”と“その他周辺”では、地域住民・一般市民とのトラブルまたは暴力経験「あり」と回答している割合が高い。“長居公園”他の地域と比べて、社会関係が希薄である。

各公園地域別に仕事の有無(表9.12)、仕事内容(表9.13)を見ると、“淀川河川敷”、“大阪城公園”で何らかの「仕事」についていると回答している割合が低い。それでも、最も低い“淀川河川敷”で約74%、“浪速西成”、“天王寺”、“長居公園”、“北部”では約9割もの野宿生活者が生きていくために何らかの仕事についている。また、仕事内容「日雇」について見ると、各公園地域でちがいは見られなかった。これを見ると、「日雇」につけている野宿生活者は、テント層で「仕事についている」と回答している455人中、42人と約1割にしか満たないものの、寄せ場である釜ヶ崎との距離に関係なく分布していることが分かる。次に「特別清掃」を見ると、釜ヶ崎を中心としての仕事という性質上、“浪速西成”で割合が高くなっている。

公園地域変数と収入(図9.6)を見ると、他の公園地域と比べて、“淀川河川敷”では収入「1万円未満」層の割合が非常に高い。また、“その他周辺”では低収入層(「2万円以上3万円未満」層と「3万円以上4万円未満」層)の割合が低く、収入「6万円以上」層の割合が高い。“天王寺”では極貧層(「1万円未満」層と「1万円以上2万円未満」層)の割合が低く、「3万円以上4万円未満」層の割合が高い。

公園地域変数と求職活動(表9.19)を見ると、各公園地域によって求職活動手段にちがいが見られる。他の公園地域と比べて、“浪速西成”と“天王寺”では「センター」で求職活動をしている割合が非常に高く、“浪速西成”、“淀川河川敷”では「職安」で求職活動している割合が低い。“浪速西成”で「職安」の割合が低いのは、「センター」が「職安」の役目を果たしているためである。“大阪城公園”と“北部”では「求人誌・新聞」を用いて、“淀川河川敷”では「雇用者に直接頼む」、「その他周辺」では「知り合いに頼む」割合が高くなっている。

(表9.21)を見ると、役所への相談「あり」と回答している割合は“浪速西成”で高く、“大阪城公園”で低い。しかし“浪速西成”で「高い」と述べたが、それでも約3割にすぎない。

(表9.25)を見ると、公園地域と関係なく「生活ケアセンター希望」と約3割から約4割の野宿生活者が回答している。

研究組織

研究代表者

森田洋司 大阪市立大学文学部教授

研究分担者

天ヶ瀬正博 大阪市立大学文学部助手
 圓藤吟史 大阪市立大学医学部教授
 大谷周造 大阪市立大学医学部教授
 大場茂明 大阪市立大学文学部助教授
 岡田進一 大阪市立大学生活科学部助手
 梶浦恒男 大阪市立大学生活科学部教授
 金児暁嗣 大阪市立大学文学部教授
 切池信夫 大阪市立大学医学部教授
 黒木哲夫 元大阪市立大学医学部教授
 小伊藤明子 大阪市立大学生活科学部助教授
 小林和夫 大阪市立大学医学部教授
 塩見進 大阪市立大学医学部講師
 島和博 大阪市立大学文学部助教授
 白澤政和 大阪市立大学生活科学部教授
 伊達ちぐさ 大阪市立大学医学部助教授
 田中隆 大阪市立大学医学部講師
 辻本英夫 大阪市立大学文学部助教授
 中山徹 大阪府立大学社会福祉学部教授
 野口道彦 大阪市立大学生活科学部教授
 橋爪紳也 大阪市立大学文学部助教授
 畠中宗一 大阪市立大学生活科学部助教授
 檜谷美恵子 大阪市立大学生活科学部助教授
 平田一人 大阪市立大学医学部助教授
 弘田洋二 大阪市立大学文学部助教授
 廣田良夫 大阪市立大学医学部教授
 福原宏幸 大阪市立大学経済学部助教授
 前田均 大阪市立大学医学部教授
 松本誉之 大阪市立大学医学部講師
 水内俊雄 大阪市立大学文学部助教授
 山縣文治 大阪市立大学生活科学部助教授
 山野正彦 大阪市立大学文学部教授

研究協力者

伊藤泰三 大阪府立大学社会福祉学部院生
 内田龍史 大阪市立大学文学部院生
 大倉祐二 大阪市立大学文学部院生
 尾松郷子 大阪府立大学社会福祉学部学生
 垣田 裕介 大阪府立大学社会福祉学部院生
 大西祥恵 大阪市立大学経済学部院生
 門田充 大阪市立大学生活科学部学生
 嵯峨嘉子 大阪府立大学社会福祉学部院生
 参鍋奈緒子 大阪市立大学文学部院生
 杉本育美 大阪市立大学文学部学生
 田保顕 大阪市立大学文学部院生
 筒井一伸 大阪市立大学文学部院生
 堤圭史郎 大阪市立大学文学部院生
 妻木進吾 大阪市立大学文学部院生
 西田衣里 大阪市立大学生活科学部
 西美江 大阪市立大学文学部院生
 沼田奈津美 大阪市立大学生活科学部院生
 松永寛明 大阪市立大学文学部院生
 松村嘉久 大阪市立大学文学部院生
 山地春香 大阪市立大学生活科学部院生

敬称略、五十音順